ガイドマップ

芭蕉と歩く芦野の里

田一枚植えて立ち去る柳かな

芭蕉・元禄二年（四月二〇日）

俳聖 松尾芭蕉が訪れた地として知られる芦野の里。芦野はかつて、奥州街道の宿駅でした。
奥の細道さんぽコースは、全長で約５km、ゆっくり歩いて２時間位です。コース以外にも道々に、由緒ある見どころが沢山あります。時間をたっぷり使って悠久の歴史が息づく芦野を堪能してください。

奥の細道さんぽコースの所要時間と距離

出　発（遊行庵）
［３分・0.1km］
1 2 遊行柳・上の宮湯泉神社
［10分・0.5km］
3 建中寺
［10分・0.5km］
4 安達家蔵座敷
［3分・0.1km］
5 武家屋敷門・構
［3分・0.1km］
6 揚源寺
［5分・0.3km］
7 芦野氏陣屋跡
［5分・0.3km］
8 三光寺
［5分・0.2km］
9 芦野氏陣屋裏門
［5分・0.3km］
10 芦野氏旧墳墓
［25分・1.2km］
11 健武山湯泉神社
［30分・1.6km］
ゴール（遊行庵）

※約５km 約２時間

発行：栃木県那須町観光商工課　TEL. 0287-72-6918

遊行庵 ～無料休憩所～

●休憩・展示室／1室
●トイレ／男女各1箇所・身障者用1箇所
●駐車場／大型車3台・乗用車用13台　農産物直売所・食堂隣接

●営業時間 9:00～16:00
●定休日 毎週月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)
●TEL 0287-74-0041

遊行柳

芦野支所より北方300m、通称、上の宮と呼ぶ湯泉神社の社頭にあり、別名「朽木の柳」ともいいます。
柳を訪ねると、土地産「芦野石」の玉垣をめぐらした中に、一本の柳が植えられ、傍らには、芭蕉の作「田一枚植て立ちる柳かな」の句碑、更には蕪村の「柳散清水涸石處々」の句碑と、西行の「道の辺……」の歌碑が立っています。

歳時記

1月
◆どんど焼き 15日

4月
◆桜まつり 中旬～下旬

6月
◆柳まつり全国俳句大会 第２日曜
◆田植えまつり 第２日曜

7月
◆お地蔵様（川原町） 23日
◆お地蔵様（新町） 24日

8月
◆聖天祭 19日（三光寺・仲町）

12月
◆峯岸の熊野講餅つき 上旬

那須歴史探訪館

那須町は古くから文化伝播の経路にあり、遺跡、史跡が数多く残っています。那須歴史探訪館は、町の歴史を「道」をテーマに表現しています。那須の風土、生活にふれてみてください。

■開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
■休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
年末・年始（12月27日～1月5日）
■TEL:0287-74-7007

■入館料（1名につき）
大人200円／団体：100円
小・中学生：100円／団体：50円
※団体は20名以上

コース解説

1 遊行柳（西行・芭蕉・蕪村の歌・句碑） 室町時代の文明3年（1471）の頃・時宗19世尊皓上人（そんこくしょうにん）が芦野地方を旅してここに至った時、柳の精の老翁を念仏で成仏させたという、宗教上の伝説発祥の地である。古来から多くの人々が訪れており、能楽や謡曲、紀行文等の題材として取り上げられ、昔から歌枕にもなる名所であった。そして元禄の頃松尾芭蕉が訪れ、「おくのほそ道」に記述されるに至り一躍有名になった。

2 上の宮湯泉神社（町指定天然記念物・大イチョウ） 数百年の樹齢・目通り6.1mのイチョウの巨木でこの地域では最大である。上の宮についての創立、由緒等は未詳であるが、社頭に遊行柳の史跡があるなど、古い社であることが考えられる。主祭神は大己貴命（おおなむちのみこと）である。社造営等の記念樹とも考えられる。

3 建中寺（芦野氏新墳墓） 元禄5年（1692）～安政4年（1857）165年間・芦野氏19代民部資俊（みんぶすけとし）から27代資原までの墓所である。当主9基の墓碑と夫人・子女等の墓碑22基、計31基の墓碑が現存している。墓碑は笠付位牌形が多く、領主や関係者の墓碑としてふさわしいものである。19代資俊のものは特に豪壮である。江戸時代の交代寄合旗本芦野氏の墓所として、完全に残っており貴重である。

4 安達家蔵座敷 芦野宿は芦野氏城下として発達し、さらに江戸時代になって奥州街道が整備され、交通、産業が盛んになると、宿場町として発展した。関東北端の宿場でもあり、旅宿の数も40余軒に達した。安達家は、それらの中心街にあった旅宿「丁子屋」（ちょうじや）であり、その残っている蔵座敷八畳二間は、意匠・構造ともに優れており、道中身分の高い者は、身の安全を図るためにこのような土蔵造りの部屋に泊まったといわれている。

5 武家屋敷門・構 江戸時代、上級武士のみに許された格式の高い、棟門の形式で建築された、特有の構えを持つ武家屋敷である。芦野氏陣屋の大手入口を入った左側にある。門内には桝形が見られる。芦野氏の上級武士の住居の様子や環境を知ることができる貴重な建造物である。

6 揚源寺（町指定天然記念物・アスナロウ） 樹齢約600年・揚源寺境内の不動明王の背後にある御神木で、目通りは約4.5m。当地域きっての巨木である。当寺は寛永年間（17世紀）の頃、現在の芦野集落センター裏の愛宕山から現在地に移転したと伝えられている。

7 芦野氏陣屋跡（県天然記念物・高野槙） 通称御殿山、桜ヶ城とも呼ばれ、４月中旬には全山が桜に覆われる。構築の年代には２説あり、１つは天文年間（1532～55）芦野資興（あしのすけおき）の代であり、一つは天正18年（1590）芦野盛泰（あしのもりやす）の代であるが、城の形式から前者の説が妥当と考えられる。当時芦野氏は那須家の一翼であり、それ以来明治の廃藩まで芦野氏の居城であった。また城址にある高野槙は、築城記念樹だといわれ樹齢400年以上で、県の天然記念物である。

8 三光寺（日本三所聖天） 日本三所聖天のひとつ。夫婦二身相抱擁して、象頭人身の形をなしている聖天（観喜天）を祀る。弘治年中（1555～58）宥徳上人の中興開山といわれる。拝殿の額面「聖天」の文字は、白河城主松平定信公の直筆である。（日本三所聖天：芦野・妻沼・浅草）

9 芦野氏陣屋裏門 16世紀～19世紀後半中の建築物。明治4年（1871）の廃藩置県で芦野氏の陣屋が解体された時、大塩家が貰い受け現在地に移築した、芦野氏陣屋の裏門である。当時は御殿山の広場の北の入口にあり、長屋造りの裏門であった。本町においては、戦国時代から江戸時代にかけての陣屋形式の唯一の原形物であり、当時の建築様式や陣屋の構え等を考察する上で重要な建造物である。

10 芦野氏旧墳墓 南北朝期～江戸時代初期・芦野資方から18代資泰まで、芦野氏系図前半の墓域といわれている。詳しいことは不明であるが、五輪塔、自然石碑、笠付位牌形など数基が現存し、かなり大型のものもある。

11 健武山湯泉神社（県指定天然記念物・大杉） 祭神は、大己貴命（おおなむちのみこと）、三穂津姫命（みほつひめのみこと）、誉田別命（ほむたわけのみこと）、事代主命（ことしろぬしのみこと）、健御名方命（たけみなかたのみこと）の五柱である。創立は那須与一宗隆の五世の孫資忠の三男資方が芦野領主になって勧請し、以来芦野氏代々が崇敬した。境内の杉一本は、樹齢700年以上と推定され、県指定の天然記念物である。

●館山山城跡
足利将軍四代義持の頃に、芦野凝灰岩の山頂を削って築いたもので、熊野堂（芦野氏居館跡）から移ったといわれている。
義持の時代は、時勢の変化で全国的に山城が築かれる時代であり、芦野氏も時代の流れに即応し、天然の要害を利用した堅固な山城に居館を移したと考えられる。

●境の明神（玉津島神社）
平安時代。古くから峠神として、福島県側と栃木県側にそれぞれ祀られている。栃木県側が玉津島神社で祭神は衣通姫命（そとおりひめのみこと）である。

●初花清水とふくべ石
初花清水は、箱根霊体験記の主人公飯沼勝五郎と妻初花が敵討ちの途中、この地で病気になり滞在している間、美人であった初花が毎朝顔を洗ったと云われる清水である。また、勝五郎が仇討を祈願して岩に彫ったのがふくべ石である。

●泉田の一里塚
1604年、奥州街道として塚を築き榎を植えさせた道標で、旅人の目安とした。江戸から45里目の関東及び下野の国の最北の一里塚である。

●諭農の碑
嘉永元年。農法指導のための石碑であり、農耕上の技術面について諭している。

●板屋の一里塚（二基）
江戸時代初期、奥州街道開通の頃。江戸日本橋より数えて44番目の一里塚である。現在の町道の両脇にあるが、見上げるほどの高さにあり、当時の道は急勾配をなしてかなり高いところを通っていたことが想像される。

●べこ石の碑（べこ＝牛の意）
嘉永元年（1848年）。道徳振興のための碑文で、3500文字からなる長文の石碑である。
長大な石が臥牛を呈しており、また始めの部分に牛首人身の炎帝神農氏（えんていしんのうし）が彫られているため、べこ石の名がついたものである。芦野の戸村忠恕翁が、晩年中風の身をもって人倫道徳の本道を教え諭すために撰文したものである。

●聖徳太子立像
室町時代、大永3年（1523）。大ヶ谷の太子堂の本尊で、聖徳太子の立像である。檜材彫刻の一本造りで、高さ41cmである。髪は、古墳時代の男子の髪型である美豆良（みずら）に結い、法衣をつけた姿をしている。

●芦野氏居館跡
中世芦野氏の居館跡で、遺跡の形式からみて鎌倉初期のものと考えられる。居館跡は、東西100m南北120mあり、周囲には、かつて短冊形に堀と推定される水田があった。内部には土塁がめぐっていたとみられる。いつの世にか北側中央に熊野権現が祀られていたので熊野堂と称されている。

●夫婦石の一里塚
1604年5月下旬・奥州街道開通の頃。塚が旧奥州街道をはさんで二つ残っている。これは江戸、日本橋より数えて43番目の一里塚である。

●堂の下の岩観音
奈良川の西岸、芦野石の岩肌が露出した中腹に観音堂があり、通称「堂の下の岩観音」と呼ばれている。古くからの観音信仰の霊場で町名勝地に指定されている。